

## 2022 年度群馬県高校野球メディカルサポート活動報告

### 1. メディカルサポートの概要（表 1）

#### 1) 参加大会

下記 4 大会に参加した。

- ・ 第 74 回春季関東地区高等学校野球大会群馬県予選 （春季大会）：4 日間 7 試合
- ・ 第 104 回全国高等学校野球選手権群馬大会 （夏季大会）：13 日間 60 試合
- ・ 第 74 回秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選 （秋季大会）：4 日間 7 試合
- ・ 第 63 回秋季関東地区高等学校軟式野球大会 （関東軟式大会）：3 日間 6 試合

#### 2) サポート内容

メディカルサポートの実施内容は、全試合において試合前の傷害に対するテーピングや、試合中の傷害や体調不良等への対応を行った。また、春季大会と秋季大会は準々決勝から、夏季大会と関東軟式大会は 1 回戦から試合後に要請のあった投手に対してクーリングダウンを行った。加えて、夏季大会の 3 回戦以降は、全試合、全登板投手に対して医師による関節機能検診が行われ、理学療法士もその補助を行った。

#### 3) 参加スタッフ数

延べ 79 名、実数 45 名であった。

#### 4) 対応選手数

応急処置、投手クーリングダウン合わせて延べ 105 名の対応があった。

#### 5) 応急処置対応件数

延べ 35 件の対応があった。

表 1 メディカルサポート概要

大会	日数	試合数	PT 数	対応人数			応急処置 対応件数
				応急処置	投手クーリン グダウン	小計	
春季	4	7	10	0	4	4	0
夏季	13	60	50	27	53	80	33
秋季	4	7	9	1	5	6	1
関東軟式	3	6	10	1	14	15	1
計	24	80	79	29	76	105	35

## 2. 応急処置の対応内容

延べ、実数ともに 29 名に対して実施し、対応件数は全 35 件であった（表 2）。対応内容別件数の内訳は、ストレッチングが 24 件（60.0%）と最も多く、次いでアイシング・テーピングがそれぞれ 7 件（17.5%）であった（表 3）。

表 2 対応人数および対応件数

	春季	夏季	秋季	関東軟式	計
対応人数（延べ）	0	27	1	1	29
（実数）	0	27	1	1	29
対応件数	0	33	1	1	35

表 3 対応内容別件数

	春季	夏季	秋季	関東軟式	計
ストレッチング	0	23	1	0	24
アイシング	0	7	0	0	7
テーピング	0	6	0	1	7
傷害確認	0	1	0	0	1
救急搬送	0	1	0	0	1
計	0	38	1	1	40

## 3. 傷害部位

傷害部位別件数では、全 35 件中、下腿部が 13 件（37.1%）と最も多く、次いで大腿部 11 件（31.4%）、足関節 3 件（8.6%）、頭部・胸腹部がそれぞれ 2 件（5.7%）であった。（表 4）。

表 4 傷害部位別件数

	春季	夏季	秋季	関東軟式	計
下腿部	0	12	1	0	13
大腿部	0	10	0	1	11
足関節	0	3	0	0	3
頭部	0	2	0	0	2
胸腹部	0	2	0	0	2
顔面	0	1	0	0	1
肩関節	0	1	0	0	1
手部	0	1	0	0	1
膝関節	0	1	0	0	1
計	0	33	1	1	35

#### 4. 傷害内容

傷害内容別件数では、全 35 件中、筋痙攣が 23 件（65.7%）と最も多く、次いで筋・腱損傷が 4 件（11.4%）、関節構成体損傷が 3 件（8.6%）であった（表 5）。

表 5 傷害内容別件数

	春季	夏季	秋季	関東軟式	計
筋痙攣	0	22	1	0	23
筋・腱損傷	0	3	0	1	4
関節構成体損傷	0	3	0	0	3
打撲	0	2	0	0	2
出血	0	2	0	0	2
脳振盪（疑い）	0	1	0	0	1
計	0	33	1	1	35

#### 5. 投手クーリングダウンについて

##### 1) 対応投手数について

投手クーリングダウンは延べ 76 名、実数 63 名に対して実施した（表 6）。

表 6 投手クーリングダウンの実施人数

	春季	夏季	秋季	関東軟式	計
延べ	4	53	5	14	76
実数	3	44	4	12	63

##### 2) クーリングダウン時の痛みについて

投球時痛を有していた投手は延べ 16 名（21.1%）、実数 13 名（21.0%）であった。疼痛部位は、肩 7 名、肘 3 名、腰部 1 名、大腿部 4 名、その他 1 名であった（表 7）。

表 7 投球時痛有訴者数および疼痛部位

	春季	夏季	秋季	関東軟式	計
有訴者数（延べ）	0	9	3	4	16
有訴者数（実数）	0	7	2	4	13
肩痛（延べ）	0	2	2	3	7
肘痛（延べ）	0	2	0	1	3
腰部痛（延べ）	0	1	0	0	1
大腿部痛（延べ）	0	3	1	0	4
その他（延べ）	0	1	0	0	1

### 3) 肩関節及び下肢柔軟性について

Combined Abduction Test (CAT) が陽性であり、肩関節下方の柔軟性が低下していると判断された投手は延べ 45 名 (59.2%)、実数 40 名 (63.4%) であった。Horizontal Flexion Test (HFT) が陽性であり、肩関節後方の柔軟性が低下していると判断された投手は延べ 44 名 (57.9%)、実数 39 名 (61.9%) であった (表 8)。また、下肢柔軟性に関しては、大腿後面、大腿前面、殿部の筋柔軟性について、いずれも低下している選手が多く認められた。Straight Leg Raising test (SLR)、Heel Buttock Distance (HBD)、股関節内旋の柔軟性が低下していた選手数を表 9 に示す。

表 8 肩関節柔軟性低下選手数

		春季	夏季	秋季	関東軟式	計
CAT 陽性者数	(延べ)	4	35	2	4	45
	(実数)	3	31	2	4	40
HFT 陽性者数	(延べ)	3	35	2	4	44
	(実数)	2	31	2	4	39

表 9 下肢柔軟性低下選手数

		春季	夏季	秋季	関東軟式	計
SLR	(延べ)	3	39	3	6	51
	(実数)	2	32	2	6	42
HBD	(延べ)	3	43	4	11	61
	(実数)	2	33	3	10	48
股関節内旋	(延べ)	3	45	3	9	60
	(実数)	2	35	2	8	47

## 6. まとめ

2022 年度の高校野球メディカルサポートは、例年通りの春季大会、夏季、秋季大会の 3 大会に加えて秋季関東軟式大会に参加した。内容としては、投手クーリングダウンと応急処置を実施した。

本年度は昨年度よりも投手クーリングダウンの対応投手数が大幅に増加した (昨年度延べ 25 名、本年度延べ 76 名)。昨年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響により、サポート自体の縮小や投手クーリングダウンが中止されていたが、本年度は概ね例年通りの対応ができたことが要因として考えられる。2023 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行するため、感染症対策は継続しつつも、少しずつコロナ禍前の活動に戻していくことが予想される。各大会時期での社会情勢等を鑑みて、今後もより良いサポートを継続していけるよう群馬県高等学校野球連盟とより一層連携を深め、協同して取り組んでいきたい。